

6. 目標指標に係る考え方と数値目標の設定

6-1 目標値の意義

目標値は、概ね5年毎に計画に記載された施策・事業の実施状況について調査、分析及び評価する中で、立地適正化計画の遂行により実現しようとする目標を定量的に提示する指標です。本計画における目標値は、「都市機能誘導」「居住誘導」「公共交通整備充実」の分野に関する指標の中から設定します。

6-2 目標値の設定

本計画に記載した施策・事業の取組み状況について、概ね5年ごとに取組み状況の調査、分析及び評価を行い、本計画の進捗状況について検討を行うとともに、必要に応じて、適切に本計画の見直し等を行うものとします。

(1) 設定期間

本計画の目標年次である概ね20年後の平成52年を目標年次、その中間の平成42年を中間年次、概ね5年後の平成37年を次回見直し年次として、指標及び目標値を設定します。

(2) 都市機能誘導の評価指標及び目標値

本計画の理念『集住と都市機能の集約との連携による、愛着を持って暮らし続けることができるまち“阿南”づくり』を目指し、「都市機能誘導の方針」に関する指標と目標値を次のように設定します。

【都市拠点（JR阿南駅周辺）に関する目標値】

都市機能誘導の方針①：JR阿南駅周辺の都市拠点において多様な高次都市機能等を集約し、求心力の強化を図ります。

【評価指標1】

JR阿南駅周辺と連絡する公共交通利用者数の増大
＜指標＞阿南循環バス（ナカちゃんバス）の1日平均輸送人員

現況値： 38人／日
(平成26年)

目標値： 約50人／日
(平成52年)

【評価指標2】

都市拠点等におけるまちなかの賑わいの増大
＜指標＞阿南『まちゼミ』講座の年間参加事業所数

現況値： 42事業所／年
(平成29年)

目標値： 100事業所／年
(平成52年)

【効果】『JR阿南駅周辺への来街者の増大に伴う小売業の活性化』

＜指標＞「富岡商店街の年間商品販売額」

現況値：7,724百万円（平成26年）（平成26年度末住民基本台帳人口75,813人に対し約10万円）

⇒目標年次：7,724百万円＜維持＞（平成52年将来推計人口57,487人に対し約13万円/人）

【地域拠点に関する目標値】

都市機能誘導の方針③：これまで育まれてきた地域コミュニティを守り育て、高齢者などの誰もが安心して暮らし続けられるよう、各地域拠点において医療、高齢者福祉、商業機能等の保全、充実を図ります。

【評価指標】

全ての都市機能誘導区域又は徒歩圏において、日常生活上に欠かせない生活サービス施設である誘導施設（診療所（内科、小児科）、地域子育て支援センター、食料品スーパーマーケット）の不足施設数の解消

現況値：不足施設数 6施設
（平成30年）
目標：0施設
（平成52年）

【効果】『生活サービス施設の充実による暮らしやすさの向上と居住誘導による徒歩圏人口比率の増大』

＜指標＞「商業施設、医療施設の徒歩圏内人口カバー率」

＜現況値＞ ＜目標年次＞ （参考：現況施設に基づく推計値）

●商業施設：64%（平成22年）

⇒目標年次：70%＜推計値（平成52年・65%）を5%UP＞

【概ね30万人地方都市圏の平均・65%】

●医療施設：58%（平成22年）

⇒目標年次：67%＜推計値（平成52年・62%）を5%UP＞

【概ね30万人地方都市圏の平均・76%】

■都市拠点（JR阿南駅周辺）に関する指標及び目標値

指標	基準値	目標値		
		次回見直し時 (平成 37 年)	中間年 (平成 42 年)	目標年 (平成 52 年)
阿南循環バス (ナカちゃんバス)の1日平均輸送人員	38人/日 (平成 26 年度)	40人/日	45人/日	50人/日
阿南『まちゼミ』講座の年間参加事業所数	42事業所/年 (平成 29 年度)	55事業所/年	70事業所/年	100事業所/年
<p>【効果】『JR阿南駅周辺への来街者の増大に伴う小売業の活性化』</p> <p><指標>「富岡商店街の年間商品販売額」</p> <p>現況値：7,724百万円（平成 26 年） （平成 26 年度末住民基本台帳人口 75,813 人に対し約 10 万円）</p> <p>⇒目標年次：7,724百万円<維持> （平成 52 年将来推計人口 57,487 人に対し約 13 万円/人）</p> <p>中間時：7,724百万円<維持> （平成 42 年将来推計人口 64,320 人に対し約 12 万円/人）</p> <p>次回見直し時：7,724百万円<維持> （平成 37 年将来推計人口 67,595 人に対し約 11 万円/人）</p>				

■地域拠点に関する指標及び目標値

指標	基準値 (平成 29 年)	目標値		
		次回見直し時 (平成 37 年)	中間年 (平成 42 年)	目標年 (平成 52 年)
都市機能誘導区域又は徒歩圏における、日常生活上に欠かせない生活サービス施設である誘導施設の不足施設数	不足施設数・計 ：6施設 診療所（内科）：1 診療所（小児科）：1 地域子育て支援センター：2 食料品スーパーマーケット：2	不足施設数 5施設	不足施設数 3施設	日常生活上に欠かせない生活サービス施設の不足施設数=0
<p>【効果】『生活サービス施設の充実による暮らしやすさの向上と居住誘導による徒歩圏人口比率の増大』</p> <p><指標>「商業施設、医療施設の徒歩圏内人口カバー率」</p> <p>●商業施設 現況値：64%（平成 22 年）/目標年次：70%<6%UP> 中間時：67%<3%UP>、次回見直し時：65%<1%UP></p> <p>●医療施設 現況値：58%（平成 22 年）/目標年次：67%<9%UP> 中間時：63%<5%UP>、次回見直し時：61%<3%UP></p>				

(3) 居住誘導の評価指標及び目標値

本計画の理念『集住と都市機能の集約との連携による、愛着を持って暮らし続けることができるまち“阿南”づくり』を目指し、「居住誘導の方針」に関する指標と目標値を次のように設定します。

【居住誘導に関する目標値】

- 方針1：JR羽ノ浦駅周辺やJR阿南駅周辺において、主に30代～40代の『子育て世代』等の転入・転居の誘導を図ります。
- 方針2：JR阿南駅周辺や橋町一般国道55号周辺において、主に20代の『若者』等の転入・転居の誘導を図ります。
- 方針3：JR阿南駅周辺や各地域拠点周辺において、主に65歳以上の『高齢者』等に配慮した持続的な居住の誘導を図ります。

【評価指標】

居住誘導による居住誘導区域の人口、人口密度の維持

<指標>6箇所の居住誘導区域の人口

現況値： 15,318人（平成27年）
【人口密度：41.6人/ha】



目標（平成52年）：
約15,000人<<現状維持>>
【人口密度：約40人/ha】

【効果】『居住誘導区域人口の維持による徒歩圏人口比率の増大』

<指標>「公共交通の徒歩圏内人口カバー率」

<<現況値>> <<目標年次>> （参考：現況施設に基づく推計値）

●公共交通：57%（平成22年）

⇒目標年次：63%<推計値（平成52年：58%）を5%UP>

【概ね30万人地方都市圏の平均・40%】

指標	基準値 (平成27年)	目標値		
		次回見直し時 (平成37年)	中間年 (平成42年)	目標年 (平成52年)
6箇所の居住誘導区域の人口	15,318人	約15,000人 <<現状維持>>	約15,000人 <<現状維持>>	約15,000人 <<現状維持>>

【効果】『居住誘導区域人口の維持による徒歩圏人口比率の増大』

<指標>「公共交通の徒歩圏内人口カバー率」

現況値：57%（平成22年）

⇒目標年次：63%<6%UP>、

中間時：60%<3%UP>、次回見直し時：58%<1%UP>